

小学5年1組 社会科学習指導案

指導者 和田倫寛

学習してきたことをもとにキャッチコピーをつくりオーディションを行ったことは、受信者と発信者双方の視点でメディアの役割をとらえ、得た知識を関連づけたり構造だてたりすることに有効であったか。

1 単元名 知ろう いかそう！ 身の回りの情報 ～集まる情報とそのいかし方～

2 授業の構想

(1) 学級で休み時間を過ごす子どもたちのようすを見てみると、読書をしたりイラストを描いたりしている子どもの間で、前日やその日のテレビ番組について話している姿がある。とくに、好きなスポーツや芸能人などの話には熱が入って盛り上がっている。全国どこにいても同じ情報が手に入れられるようになった現代社会。そのなかで子どもたちは、テレビから欲しい情報を手に入れ、個人的に、あるいは友だちと共有して楽しんでいる。事前アンケートの結果で、ほぼ全員が毎日テレビを視聴し、その視聴理由に「おもしろい」が一番多く挙がっていることから、このような姿は見えてくる。

しかし、子どもが得ている情報は、これら趣味や娯楽の内容だけではない。政権交代や被害が心配された台風の動き、新型インフルエンザの影響などを学級で話題にした時には、「ニュースで見た」「新聞に書いてあった」と声があがり、半数程度の子どもが知っていた。それだけ話題性があっただけでなく、家族と一緒にニュースを見ながら社会の動きや状況について知ることが生活の一部になっている子どもがいる。ただし、「時間がない」「テレビのニュースで知れる」という理由から新聞を日常的に読む子どもは半数程度で、見てもテレビ欄やスポーツ欄という子どもが多いこともわかっている。

社会科では、1学期より資料の読み取りから疑問を見つけ出し、その疑問を解決する活動を取り入れてきた。米づくりの工夫についての学習をしたときには、農業機械の所有台数と労働時間の2つのグラフを見比べ、気づいたことを話し合う活動を行った。そのなかで予想に反する事実を知った子どもたちは、その理由を知りたいという思いをもち、調べ活動に意欲的に取り組んだ。また、調べてわかったことや考えたことを共有することで、農家の方々の工夫や努力に気づくことができていた。

一方、この調べ活動をするなかで、安易にインターネットを使おうとする傾向も見られる。その際、ウェブ上にある情報の真偽を確かめたり、情報を選択したりすることはあまりない。また、得た情報を再構成することが難しく、伝えあいをしても表面的な知識の報告で終わってしまう姿も見られる。

(2) これまでに述べてきたように、高度情報化は社会のようすを大きく変化させているとともに、子どもたちのくらしにも影響を与えている。これにともない、今回の学習指導要領改訂では「放送、新聞などの産業と国民生活のかかわり」に加え、「情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり」についての学習が設置されることとなった。

そこで本単元では、くらしのなかにはさまざまな情報があることに気づき、それらが自分たちのくらしに影響を及ぼしているようすを調べることを通して、情報を有効に活用することの大切さを考えさせたり、正確な情報の発信や情報の受信者のニーズに応えるという点について、発信者の責任や役割があることに気づかせたりしていきたいと考える。そこで本単元では、子どもたちにとっても身近にあり、多くの子どもが一度は目にしたことがあると思われる山陰中央新報と、山陰ケーブルビジョンが放映しているマーブル情報チャンネルを教材として取り上げることとした。

山陰中央新報は、島根県の地方紙として国内外の情勢はもちろん、地域に密着した紙面構成がなされている。具体的には、2面にわたる「山陰ワイド」で山陰各地のできごとを伝えている他、県内11カ所ある取材網を使って情報を集め紙面構成をする「しまねワイド」(2面)や山陰の文化を伝える文化

面、山陰各地でのイベント情報、情報ステーションなどの情報が細やかに、かつわかりやすく掲載されている。この紙面構成の工夫を調べていくなかで、地域の情報を入手したり、それをくらしにいかしたりしやすい情報手段として山陰中央新報があることを考えたり、情報の受信者（読者）のニーズに応えようとする発信者の役割に気づけたりできると考える。

マーブル情報チャンネルは、松江市でのくらしに関わる情報や防災情報が、ケーブルテレビ網で 24 時間発信されている文字放送である。このうち防災情報に関しては、市の防災安全課が情報発信したものが各家庭に配信されている。さらに、デジタル放送化され、リモコン操作で欲しい情報を選び、いつでもすぐに入手できるようになった。これにより、多くの市民がより早く正確な防災情報を得られるようになった。このしくみを調べていくなかで、自分たちのくらしを守るために、主体的に情報を得て有効に活用することの大切さをとらえていくことができると考える。

これらをさまざまな資料と比較したり、関連づけたりしながらとらえていくなかで、情報化した社会とわたしたちのくらしとのかかわりを追求させることができると考える。2つのメディアに対する追求をまとめる手立てとして、本単元では、それぞれのキャッチコピーを作る活動を取り入れる。テレビCMでもよく目にするキャッチコピーは、対象の価値を多くの人に伝える手段であり、対象のよさや特徴を短い言葉でわかりやすくまとめた文言である。短く表現するためには、得た数々の知識を整理し、それらの重要性を考え、言葉の選択・削除をしていかなければならない。山陰中央新報やマーブル情報チャンネルのキャッチコピーをつくったり、そのオーディションを行ったりすることで、追求を通じてわかったことを再構成したり、考えたことを伝えあったりすることができるであろう。これにより、求められているであろう情報が正確に発信されていること、その情報を主体的に選択・判断し活用することが大切だという情報に対する見方・考え方ができるようになってほしい。

(3) この2つのメディアを取り上げるためには、子どもに追求の必然性や必要感をもつことが重要となる。そこで、さまざまな情報をどんなメディアから手に入れているか家庭で調べてきたことをもとに、子どもたち自身がくらしをふりかえる時間を設ける。この活動により、テレビや新聞、書籍、インターネットなどさまざまなメディアの存在やその利用の仕方を改めて気づかせたい。その後、資料を提示し、全国的に見て山陰中央新報やマーブル情報チャンネルで情報を得ている人数が少ないことを読み取らせていく。ここから生じるであろう「見る人が少ないのに情報を発信し続けているのはなぜだろう」という疑問を単元全体の学習課題とし、情報の在り方を追求していく契機にしたい。

第2次では山陰中央新報、第3次ではマーブル情報チャンネルを、基本的には同じ学習過程をくり返して追求させる。これにより、第3次の学習では第2次での学習経験から得た知識をもとに考えたり、発言したりできるようにし、情報の質の違いに気づいたり、得たい情報によってメディアを選択したりすることができるようにさせたい。具体的には、まず同業他社と比較することで特徴をおおまかにつきみ、制作上の基本的な考えを予想する。その後、予想を確かめるために山陰中央新報社や山陰ケーブルビジョンの方に直接話を聞く時間を設ける。このことで、違う立場からメディアをとらえる機会をつくり、メディアの役割を違う視点から考えられるようにしたい。最後に、学習したことをもとにして第2次では山陰中央新報、第3次ではマーブル情報チャンネルを核としたイメージマップを作成し、それを手がかりにキャッチコピーの作成・オーディションをそれぞれの時間に行う。

第4次では、山陰中央新報とマーブル情報チャンネルを核にした2つのイメージマップやキャッチコピーから共通する語句を取り上げ、情報についてまとめていく。この活動を通して、どのメディアでも情報が自分たちのくらしに大きな影響を与えていることや、それを活用するうえで正しい判断が必要なことなどをとらえさせたい。

本時は第3次 11 時間目であり、マーブル情報チャンネルのキャッチコピーオーディションを行う時間である。キャッチコピーをつくる活動は、前時に行っている。そのキャッチコピーについて、説明したり、説明を聞いたりすることを通して、情報チャンネルは市役所とマーブルが協力して、わたしたちのくらしを守り向上させるために放送されていることや、学習後どのように活用すればいいかを考えられる時間としたい。このねらいにせまるために「情報チャンネルに一番ピッタリなキャッチコピーを選

ぼう」というめあてを設定する。第2次の終末と同じようなめあてを設定することで、子どもが見通しをもって活動を始められるようになることも願っている。オーディションは、まず班で行い、その後全体の場での選考を行う。選ぶためには特徴を短く言い表したキャッチコピーをつくるだけでなく、その言葉を選んだ理由を伝えたり、聞いたりすることが求められる。この過程で、学習のなかで気づいたことや考えたことを整理したり、友だちとのかかわりあいのなかで習得した知識を再構成するであろう。そのため、まず班で選考することで、伝える機会、考える機会を全員に保障したい。また、全体でのオーディションでは説明や質問など話し合いの時間を十分に確保することで、友だちの考えを参考にしながら意見を言ったり、情報チャンネルに対して各班が共通にもつ考えに気づいたりしやすくしたい。活動をふりかえる際には、一番ピッタリだと思ったキャッチコピーとそれを選んだ理由だけでなく、そのキャッチコピーを見た人がどのように感じるかを視点として書かせることで、情報の活用の仕方について考えられるようにしたい。

3 活動展開計画（全12時間 本時11/12）

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	情報を手に入れるために何を使っている？	課外 1	<ul style="list-style-type: none"> どんな情報を何で得たのか、自分がしたことを記録したり、家族にインタビューしたりして調べる。 くらしのなかにどんな情報手段があるのか確認し、それぞれの特徴を考える。
2	山陰中央新報の特徴を調べ、伝えよう	2 3 4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 山陰中央新報と全国紙5紙を見比べ、紙面構成や内容の違いを調べ、山陰中央新報の特徴をとらえる。 山陰中央新報はどんな考えで紙面構成や内容が決められているのか予想する。 山陰中央新報の方の話を聞いて確かめる。 インタビューでわかったことからイメージマップを作成し、それをもとに山陰中央新報のキャッチコピーを作る。 キャッチコピーのオーディションを行い、特徴を明らかにする。
3	マーブル情報チャンネル（データ放送）の特徴を調べ、伝えよう	課外 8 9 10 ⑩	<ul style="list-style-type: none"> マーブル情報チャンネルをどのようにくらしに活かしているか、家族にインタビューをする。 マーブル情報チャンネルはどのような考えで作成されているのか予想する。 マーブルの方の話を聞いて確かめる。 インタビューでわかったことからイメージマップを作成し、それをもとにマーブル情報チャンネルのキャッチコピーを作る。 キャッチコピーのオーディションを行い、特徴を明らかにする。
4	情報って何か、もう一度考えよう	12	<ul style="list-style-type: none"> 山陰中央新報とマーブル情報チャンネルのイメージマップを見比べながら、情報で大切なことは何かを考える。

4 評価計画

次	時	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	社会科における思考力・判断力・表現力
1	1	事前に調査した結果から、情報の特徴を考えようとしている。	身の回りにはたくさんの情報があることに気づいている。		情報を得る手段の大きな特徴を理解している。	何か知りたいときにどんな方法を使って情報を手に入れているか、くらしをふりかえりながら考えている。
2	2 3 4 5 6 7	山陰中央新報と他の新聞を見比べたり、インタビューをしたりして、山陰中央新報の特徴を見つけようとしている。	山陰中央新報の特徴に気づき、自分たちのくらしのなかでの役割や活用の仕方を考えている。	山陰中央新報と他紙を比べ、紙面構成や内容の違いをとらえている。山陰中央新報の特徴をわかりやすくまとめ、説明している。	山陰中央新報の情報は、松江でくらす自分たちのくらしをよりよくするものであることを理解している。	山陰中央新報のキャッチコピーを自分の言葉でわかりやすくまとめることや、オーディションで説明したり、友だちの説明を聞いたりすることを通して、山陰中央新報の役割と活用の仕方を考えている。
3	8 9 10 ⑩	マーブル情報チャンネルを見たり、インタビューをしたりして、情報チャンネルの特徴を見つけようとしている。	情報チャンネルの特徴に気づき、自分たちのくらしのなかでの役割と活用の仕方を考えている。	情報チャンネルの特徴をわかりやすくまとめ、説明している。	情報チャンネルからの情報は瞬時に送受信され、松江でくらす自分たちのくらしをよりよくするものであることを理解している。	情報チャンネルのキャッチコピーを自分の言葉でわかりやすくまとめることや、オーディションで説明したり、友だちの説明を聞いたりすることを通して、情報チャンネルの役割と活用の仕方を考えている。
4	12	学習をふりかえりながら、イメージマップを書こうとしている。	イメージマップを作成しながら、それぞれの特徴を考えている。	学習を通じて考えたり気づいたことをイメージマップに表している。	情報とくらしには深いかわりがあることを理解している。	情報がくらしに大きな影響を与えていることやそれを活用するうえで正しい判断が必要なことなどを考えている。

5 本時の学習

(1) ねらい マーブル情報チャンネルは、市役所とマーブルが協力して、市民の生活がより向上するために放送されていることに気づき、その後の活用方法を考えることができる。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
<p>1. めあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時でキャッチコピーをつくったことをふりかえったり、前時での取り組みのよさを認めたりすることで、本時の活動への意欲を高める。 ・第2次で行ったオーディションを想起させることで、活動に見通しがもてるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">情報チャンネルに一番ピッタリなキャッチコピーを選ぼう</div>	
<p>2. 班で、それぞれが考えたキャッチコピーとその理由を伝え合い、話し合って選考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇ってという言葉、いいなあ。 ・どうして□□って言葉を使ったんだろう。 ・この2つを合わせたら、もっといいのができそうだなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず班で伝え合い話し合うことで、全員が自分の考え（キャッチコピー）を伝えられる機会を確保するとともに、自信をもって全体の場で発表できるようにする。 ・情報の発信者がもつ責任の大きさの一端が感じられるためにも、語句の一つひとつにこだわって話し合っている姿を認め、全体に広げていきたい。
<p>3. 班で選考したキャッチコピーとその理由を全体の場で伝え合い、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・◆班がこのキャッチコピーを選んだ理由はなんだろう。 ・◇◇って言葉は、……って言う意味なんだな。 ・△班のは、自分たちのより「市民の安全を考えて」ということがわかりやすいぞ。 ・山陰中央新報と違って、欲しい情報が欲しいときに手に入れられるから、「いつでも」って言葉を入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問をしたり、意見が言えたりする時間を確保することで、互いの考えを十分に確認し、学習してきたことと比較しながら考えられるようにする。 ・それぞれのキャッチコピーにこめた思いを短い言葉で板書していくことで、各班に共通する考えに気づきやすくする。 ・第2次で行ったオーディションと比較しながら発言する姿を認めることで、情報チャンネルの特徴を明確にできるようにする。
<p>4. 一番ピッタリなキャッチコピーを選び、活動をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつでも」と「安全」って言葉が入っている☆班のキャッチコピーがいいと思う。情報チャンネルは見る人が少ないけど、わたしたちのくらしの安全を考えてつくられているということがわかった。今度、台風や大雨になった時に見てみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番ピッタリだと思った理由をこれまでの学習をふりかえりながら書くことで、情報の活用の仕方について考えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点(思考力・判断力・表現力) —</p> <p>キャッチコピーについて自分の言葉で説明したり、友だちの説明を聞いたりすることを通して、情報チャンネルはわたしたちのくらしを守り向上させるために放送されていることや、どのように活用すればいいかを考えている。</p> <p style="text-align: right;">【評価方法 発表、ノート】</p> </div>